

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
1流通単元の株式数	1株
剰余金の配当の基準日	毎年3月31日、その他必要ある場合はあらかじめ公告する一定の日 中間配当を行う場合は9月30日
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 本店
同事務取扱所	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 証券代行事務センター（〒168-0063） 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 0120-78-2031（フリーダイヤル）
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店

（お知らせ）
住所変更、端株株式買取請求、名義書換請求および配当金振込指定に必要な各用紙ご請求は、下記株主名簿管理人の用紙請求専用フリーダイヤルまたはホームページをご利用ください。
●フリーダイヤル 0120-87-2031（24時間受付：自動音声案内）
●ホームページ http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

公告方法 電子公告
<http://www.jfe-systems.com/ir/houtei.html>
但し、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

上場証券取引所 東京証券取引所

（ご注意）本資料の将来の業績等に関する見通しは、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績は、様々な要因により、見通しとは異なる結果となりうることをご承知お願います。

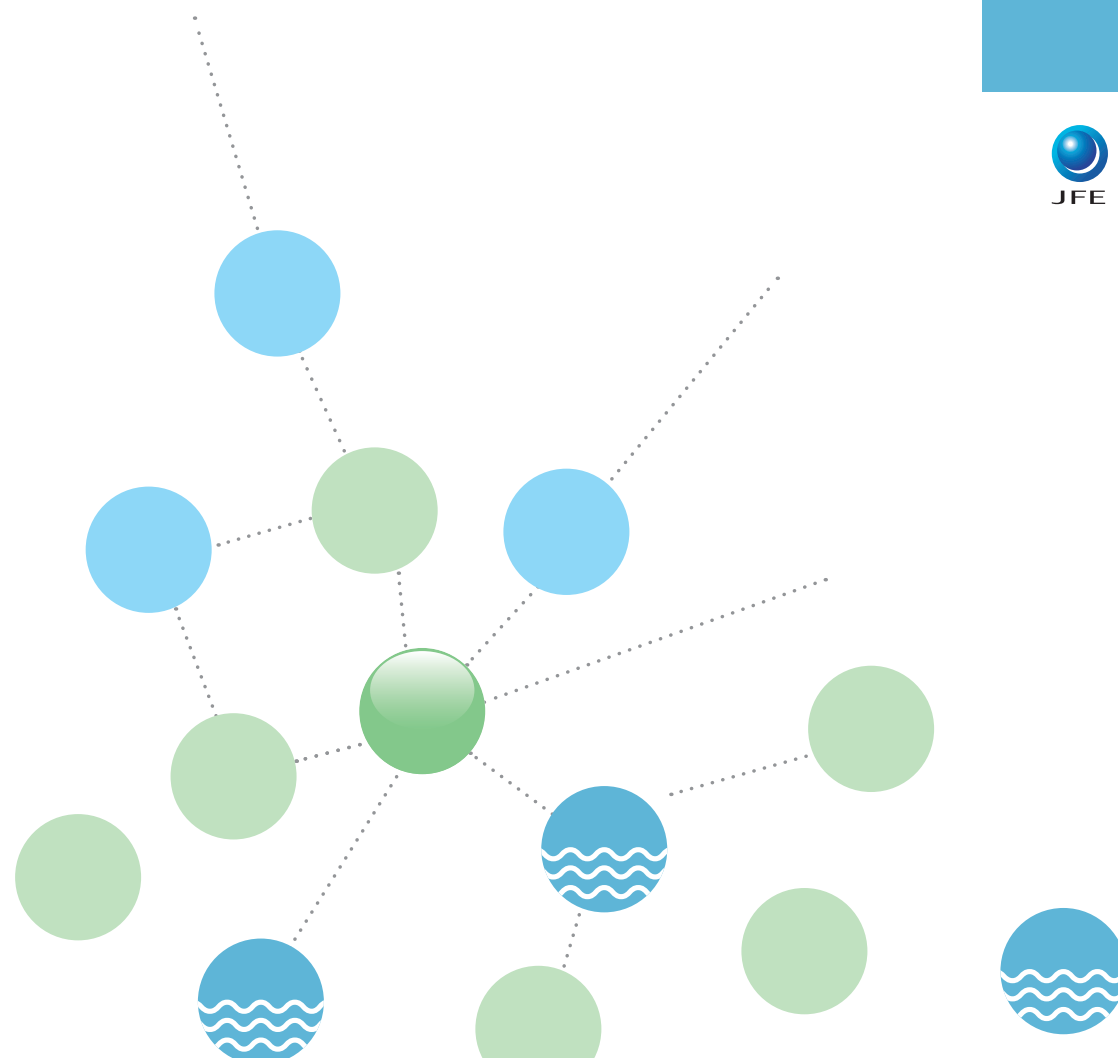
<http://www.jfe-systems.com>

当社のホームページでは、投資家のみなさま向けの「IR情報」をはじめ、最新のニュースをお知らせする「What's New」、お客様の導入実績をご紹介する「実績紹介」など、様々な情報を公開しています。当社「IR情報ページ」は、日興アイ・アール株式会社の「2007年度全上場企業ホームページ充実度ランキング調査優秀企業ホームページ」および大和インベスター・リレーションズ株式会社の「2008インターネットIR優秀企業賞」に選ばれました。



株主のみなさまへ

2008年3月期ご報告
2007年4月1日－2008年3月31日





顧客基盤の拡充と独自プロダクトの展開により 3期連続の増益を達成

株主のみなさまにおかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当期は、JFEグループ会社向けの特需が終わり、一般顧客向けビジネスの比重が高まる中、「顧客基盤の拡充と独自プロダクトの展開」という基本方針に沿って、業績向上に取り組んだ期でありました。製造、金融、通信の分野を中心とした重点顧客戦略により、安定的な収益源を確保・拡大する一方、食品や電子帳票といった当社ならではのプロダクト事業を展開し、高収益・高成長の事業セグメントを伸ばすことで、バランスの良い収益モデルの確立を目指しました。また、不採算案件の撲滅に取り組み、地道な活動ではありますが、その成果を収益向上に結びつけることができました。これらの活動が実を結び、当期は3期連続の経常利益増益を達成することができました。

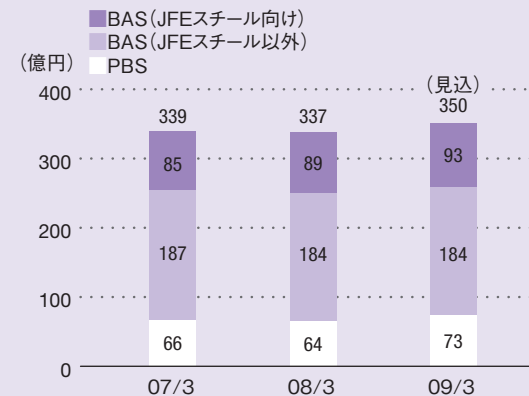
今後も上記方針を基本軸に据えていきますが、昨今の情勢をふまえ、新たな事業展開を考える上での重要なキーワードが「グローバル対応」であると考えています。JFEスチールをはじめ、当社の重要顧客において海外戦略は重要な経営テーマであり、ITサービス企業としてグローバルな対応力を持つことが必須要件となりつつあります。情報サービス産業もこれまでのようなドメスティックな業態から脱却していかなければならないと考えています。

このような中、当社が中核メンバーとして参画した「J-Smile (JFEスチール新統合システム)」がWITSA (世界情報サービス産業機構) が主催する『2008年ITユーザー表彰』(今回日本からは1件のみ)を受賞し、世界基準の中でもIT化における当社のコンセプトと技術力が優れていることが証明されました。また、当社の自社開発プロダクトの中でも、安全・安心・環境という世界共通課題の解決に対し、貢献し得るものがあるとの基本認識から、グローバルな市場性を試していくことも考えています。

株主のみなさまにおかれましては、当社の取り組みについてご理解をいただき、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2008年6月

売上高(連結)の実績と見通し



2008年3月期
の実績

■ JFEグループ会社向けの減少を金融、製造向けの増加でカバー
(安定顧客売上が着実に増加)

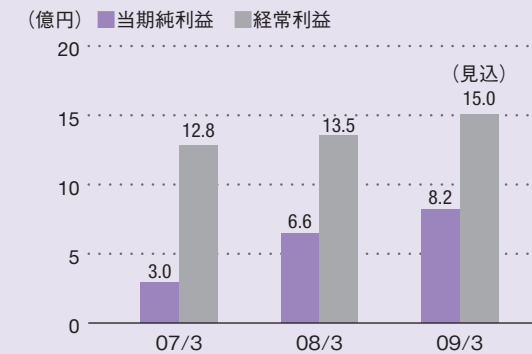
2009年3月期
の見通し

■ JFEスチール向けは製鉄所IT投資により収益増加を見込む
■ 食品業界向けを中心にプロダクト事業の収益増加を見込む

BAS: ビジネスアプリケーション・システム事業
(顧客要求に応じた業務システムの構築)

PBS: プロダクトベース・ソリューション事業
(パッケージソフトを主体とした基盤系システムの構築)

経常利益、当期純利益(連結)の実績と見通し



2008年3月期
の実績

■ 品質管理活動の成果によりコスト増を抑え、利益率が向上
■ 前期に大型案件の開発中止による特別損失があったため、2008年3月期の当期純利益は大幅に改善

2009年3月期
の見通し

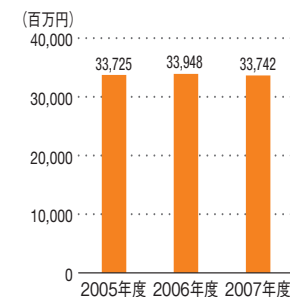
■ 食品業界向けのシステムを中心にプロダクト事業での利益率向上を見込む

代表取締役社長 岩橋 誠

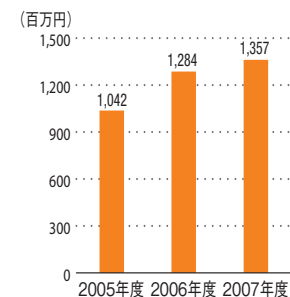
Financial Highlights

財務ハイライト

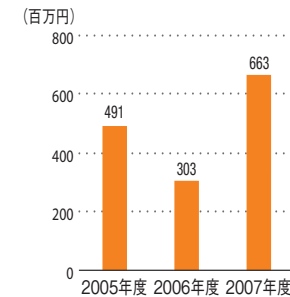
売上高



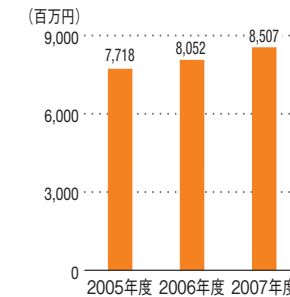
経常利益



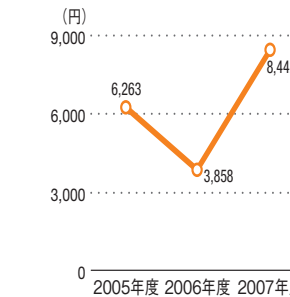
当期純利益



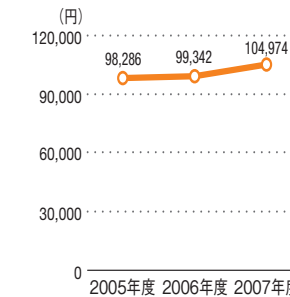
純資産



1株当たり当期純利益

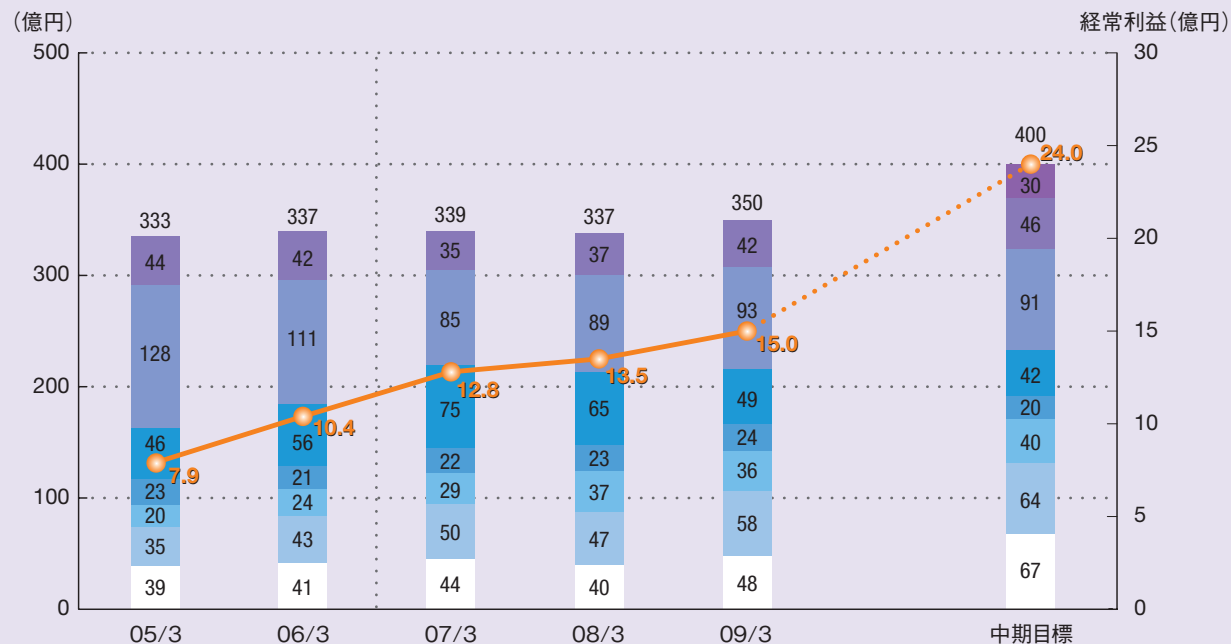


1株当たり純資産



2007年3月期～2009年3月期の中期経営計画の成果と課題

事業別業績推移(連結)



- 経常利益
- M&A業務提携
- KITシステム向け寄与
- JFEスチール向け
- JFEグループ会社向け
- NW運用
- 金融業界向け
- 製造業界向け等
- プロダクト事業

成果 (体質強化)

収益体質の改善

・ 経常利益
(2005年3月期) 7.9億円 → (2009年3月期見込) 15.0億円
・ 不採算プロジェクトの抑止、不振事業の縮小
↓
規模拡大より体質強化を優先

安定顧客の定着 / 拡大

・ 金融および製造等売上高
(2005年3月期) 55億円 → (2009年3月期見込) 94億円

課題 (成長施策)

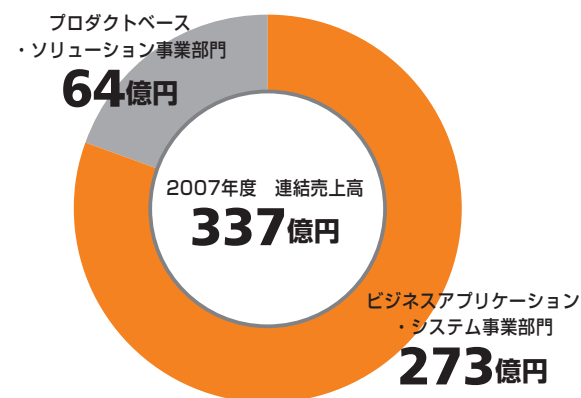
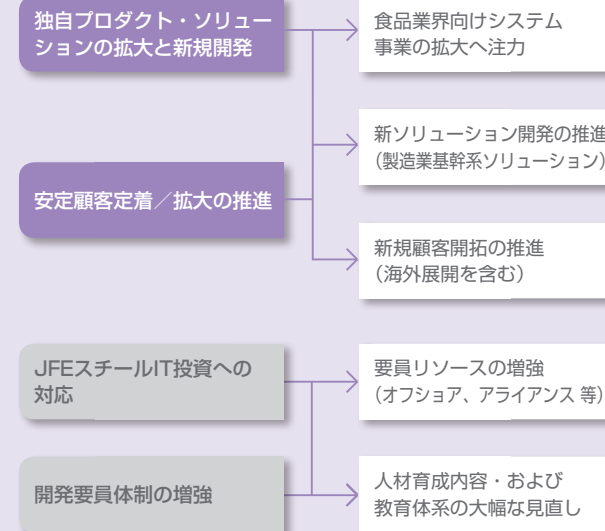
プロダクトの展開

・ 食品業界向けソリューションの収益拡大
・ 新規独自ソリューションの開発

M&Aの推進、要員リソースの増強

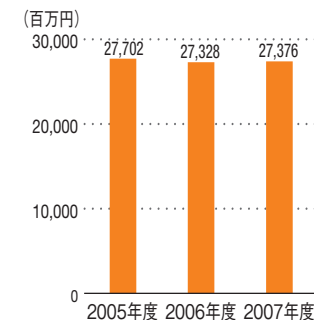
・ 当社グループ施策、オフショア開発を含む

事業戦略と重点課題



ビジネスアプリケーション・システム事業部門

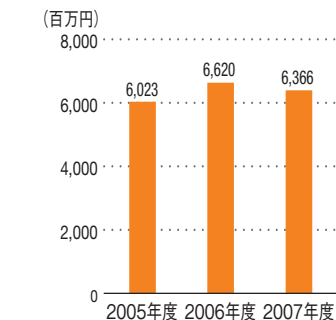
(顧客要求に応じた業務システムの構築)



JFEグループ会社向けのシステムリフレッシュ案件の多くが終了したことによる売上高の減少を、金融や製造の安定顧客向けおよびJFEスチール向けの売上高増により挽回し、当事業部門の連結売上高は前期比0.2%増の27,376百万円となりました。

プロダクトベース・ソリューション事業部門

(パッケージソフトを主体とした基盤系システムの構築)



ネットワーク基盤システム構築および緊急地震速報システム事業で売上を伸ばしたものの、食品業界向け事業のラインアップ強化による収益拡大が遅れたこと、および前期にデータベース・アプリケーションシステム事業で大型案件の売上計上があったことなどから、当事業部門の連結売上高は前期比3.8%減の6,366百万円となりました。

お客様紹介 Vol.2

株主のみならず、もっと身近なイメージで当社の事業内容をご理解いただきたく、当社のお客様をご紹介します。

今回は、JFEグループ会社の一つでもある豊平製鋼株式会社(以下、豊平製鋼様)をご訪問し、常務取締役の三田広志様に、当社に関するご感想や今後の期待についてお話を伺ってきました。

TOYOHIRA

豊平製鋼株式会社

【会社概要】

本社所在地：北海道札幌市西区発寒10条13丁目1番1号

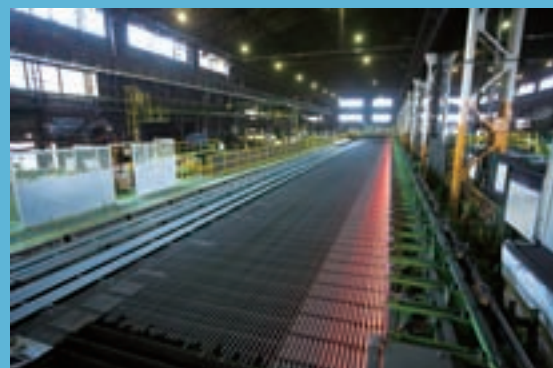
資本金：15億6千万円

設立：昭和32年10月

従業員：135名(2008年3月期)

事業内容：棒鋼、橋梁、鉄構物、産業機械などの製造・販売

ホームページ：<http://www.toyohira.co.jp/>



棒鋼圧延工場(冷却床設備)

Q 今回は営業販売管理システムをリフレッシュされたそうですが、背景やねらいはどこにあったのでしょうか。

A 今まで使っていた営業販売管理システムは、最初の本番稼働からすでに20年以上が経過している上、変更や追加があるたびにその場しのぎで手を加えた「つぎはぎ」だらけのものでした。老朽化したシステムを新しくして処理スピードの向上を目指すことは大前提ですが、リフレッシュによって他に大きく次の3つのことを狙いました。

まず1つ目は、手作業で行っている作業工程のミス発生リスクや作業不可を改善すること、2つ目は、数名のベテラン社員にしかわからないような作業の流れをオープンにし、ブラックボックスを無くすこと、そして3つ目は情報の共有化です。

Q 従来のシステムは他のシステム会社に構築・保守をお願いしていたと伺いましたが、今回当社をご採用いただいたのはどのような点をご評価いただけたのでしょうか。

A 一番大きいのは、鉄鋼業の業務やシステムに対する経験やノウハウが他社よりあったということです。例えば、他社を採用した場合、業界特有の言葉についていちいち細かく説明しなければなりません。しかしJFE-SIさんなら、翻訳することが必要なのですぐに本題に入ることができます。

Q 開発中あるいは本番稼働後、問題はなかったのでしょうか。

A とりわけ大きな問題はなく進みました。システム開発者というと技術屋で固い人というイメージを持っていましたが、JFE-SIさんのスタッフは物腰柔らかく、親身に相談に乗ってくれました。たまにはお互いの意見がぶつかることもありましたが、それは喧嘩ではなく、よいシステムを作りたいという一心での議論だったと思っています。素晴らしいスタッフのおかげで新システムができました。

Q 今後のシステム展開や当社に期待することをお聞かせください。

A 今まででは何かあったときのサポートを考えると地場のソフトハウスに頼っていましたが、言葉の壁などで「痒いところに手が届かない」という歯がゆい思いをしたこともありました。これからは地場にこだわらず、言葉の通じるソフトベンダーに使い勝手のよいシステムを構築してもらいたいと思います。JFE-SIさんには、今後も、当社に最適なシステムを提案し続けてもらいたいです。



常務取締役 三田 広志様

プロジェクト担当者の声



左：豊平製鋼様 三田様
右：当社 石橋さん

今回のシステムリフレッシュでは、「良いものを作ろう!」と努力したことを大変評価していただき、1年間の苦勞が報われる思いです。

豊平製鋼様と仕事をさせていただいて印象的だったのは、各ご担当者の仕事に対する姿勢や今回のシステムリフレッシュに寄せる強い思いです。問題にぶつ

かった時も皆様の情熱に助けられた場面が多々ありました。

今回のプロジェクトでは、旧ホストコンピュータ系システムをオープン系システムに転換する方式で対応させていただきましたが、これからのお手伝いは業務改革や業務の効率化などを、ご一緒に実践していきたいと考えております。

今後とも熱い心と笑顔を忘れず、豊平製鋼様にとって価値のあるシステム提案を行っていきたくと考えております。

西日本事業所 ビジネスシステムGr 石橋 明

2007

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

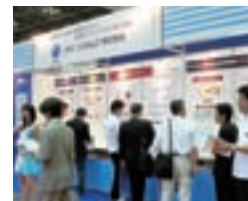
2008



2007年度入社式



食品開発展



FOOMA JAPAN 2007



ヒューマンキャピタル



金融国際情報技術展



食品企業IT活用貢献賞



神戸新社屋



東芝オフィシャルパートナー

■ 4月
2007年度入社式
(40名入社)

中堅・中小の食品製造業向けに品質情報管理パッケージ「Vestia(ヴェスティア)」をリリース、(株)内田洋行が販売総代理店となり全国にデリバリー開始

決算発表 (兎クラブ)

アナリスト説明会 (大手町サンケイプラザ)

■ 5月
環境マネジメントシステム (ISO14001)を全社で認証取得

当社が独自に開発した製法管理システム「Quebel (キューベル)」販売開始

ifia JAPAN2007 (第12回国際食品素材/添加物展・会議)

■ 6月
FOOMA JAPAN 2007(国際食品工業展)「商品カルテ作成業務の現状と今後加速する小売、卸とメーカーの連携」

コンタクトセンタのアウトバウンド業務に特化したソリューション「SoftDialer (ソフトダイアラー) シリーズ」のラインナップ一新

株主総会、新役員体制

■ 7月
当社も開発に参画した、JFEスチール(株)の新統合システム(J-Smile ジェイスマイル)が「IT Japan Award 2007」準グランプリを受賞

Sterling Integrator による次世代EDI/EAIソリューションセミナー開催

BPMソリューションUltimus製品セミナー開催

■ 8月
Dynamics™ CRMを活用したコンタクトセンタソリューション分野でマイクロソフトと協業「CIRCULATE CRM」販売開始

■ 9月
「Mercurius (メルクリウス)」が日本食糧新聞社「食品企業IT活用貢献賞」を受賞

CIRCULATE CRM 発表セミナー開催

緊急地震速報配信サービスMJ@lertセミナー開催

■ 10月
神戸・大阪地区事務所が神戸商工貿易センタービルへ移転

当社ホームページのIR情報ページをリニューアル

2007年9月中間期の決算説明会 (大手町サンケイプラザ)

■ 11月
「ERP連携ソリューション」セミナー開催

JFEグループ向けセキュリティ対策ソリューションセミナー開催

■ 12月
生活共同組合コープさっぽろ他と共同でアルカナム オンラインサービス開始

コールセンターソリューションセミナー開催

■ 2月
記者懇親会開催

業務にかかせない「帳票」から考える変化に強いシステム基盤構築の進めかたセミナー開催

■ 3月
(株)東芝および東芝インフォメーションシステムズ(株)のオフィシャルパートナーとして認定(シルバー)

連結貸借対照表(要約) 3月31日現在

単位:百万円

	2007年度	2006年度		2007年度	2006年度
資産の部			負債の部		
流動資産	9,785	11,996	流動負債	5,283	8,322
固定資産	4,845	5,001	固定負債	839	621
有形固定資産	1,741	1,768	負債合計	6,123	8,944
無形固定資産	1,187	1,380	純資産の部		
投資その他の資産	1,916	1,852	株主資本	8,233	7,790
			資本金	1,390	1,390
			資本剰余金	1,959	1,959
			利益剰余金	4,883	4,440
			評価・換算差額等	10	11
			その他有価証券評価差額金	△ 2	△ 1
			土地再評価差額金	12	12
			少数株主持分	263	251
			純資産合計	8,507	8,052
資産合計	14,631	16,997	負債純資産合計	14,631	16,997

連結株主資本等変動計算書 2007年4月1日～2008年3月31日

単位:百万円

	株主資本				評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計		
2007年3月31日残高	1,390	1,959	4,440	7,790	△ 1	12	11	251	8,052
連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当			△ 219	△ 219					△ 219
当期純利益			663	663					663
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)					△ 0	—	△ 0	12	11
連結会計年度中の変動額合計	—	—	443	443	△ 0	—	△ 0	12	454
2008年3月31日残高	1,390	1,959	4,883	8,233	△ 2	12	10	263	8,507

連結損益計算書(要約) 4月1日～3月31日

単位:百万円

	2007年度	2006年度
売上高	33,742	33,948
売上原価	27,938	28,431
売上総利益	5,803	5,516
販売費及び一般管理費	4,447	4,238
営業利益	1,356	1,278
営業外収益	43	37
営業外費用	42	31
経常利益	1,357	1,284
特別利益	23	85
特別損失	154	710
税金等調整前当期純利益	1,226	659
法人税、住民税及び事業税	364	59
追徴税額	—	15
法人税等調整額	181	267
少数株主利益	16	13
当期純利益	663	303

経常利益

5.6%増

全社売上高は前連結会計年度比微減ですが、品質管理の強化による開発コスト抑制等により売上総利益率が好転し、前連結会計年度比5.6%増の1,357百万円となりました。

当期純利益

663百万円

当連結会計年度は、特別利益として貸倒引当金戻入益23百万円を計上し、特別損失として訴訟和解金82百万円、過年度役員退職慰労引当金繰入額61百万円、投資有価証券評価損11百万円を計上いたしました。経常利益の好転に加え、これらの特別利益と特別損失の合計が前連結会計年度に比べ好転したことから、前連結会計年度と比べ当期純利益は359百万円増の663百万円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書(要約) 4月1日～3月31日

単位:百万円

	2007年度	2006年度
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,831	371
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 619	△ 1,109
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,093	643
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	0
現金及び現金同等物の増減額	118	△ 95
現金及び現金同等物の期首残高	237	332
現金及び現金同等物の期末残高	356	237

キャッシュ・フロー

営業活動により得られたキャッシュ・フローは、売上債権及び未収入金の回収により資金の入金が進み3,831百万円となりました。これに対し投資活動に使用されたキャッシュ・フローは、無形固定資産を主とした固定資産の取得により、619百万円となりました。これらを合計したネットのフリーキャッシュ・フローは3,212百万円のプラスとなり、この資金により短期借入金の返済を2,870百万円実行しました。その結果、配当金の支払等を加えた財務活動によるキャッシュ・フローは3,093百万円の支払超過となりました。

個別貸借対照表(要約) 3月31日現在 単位:百万円

	2007年度	2006年度
資産の部		
流動資産	8,154	10,302
固定資産	4,854	4,988
有形固定資産	1,702	1,734
無形固定資産	1,120	1,285
投資その他の資産	2,031	1,968
資産合計	13,008	15,291
負債の部		
流動負債	4,565	7,452
固定負債	355	168
負債合計	4,921	7,621
純資産の部		
株主資本	8,074	7,657
資本金	1,390	1,390
資本剰余金	1,959	1,959
利益剰余金	4,724	4,307
評価・換算差額等	12	12
土地再評価差額金	12	12
純資産合計	8,087	7,670
負債純資産合計	13,008	15,291

個別損益計算書(要約) 4月1日~3月31日 単位:百万円

	2007年度	2006年度
売上高	30,060	30,477
売上原価	25,082	25,764
売上総利益	4,977	4,712
販売費及び一般管理費	3,733	3,479
営業利益	1,244	1,233
営業外収益	49	45
営業外費用	32	31
経常利益	1,260	1,247
特別利益	23	81
特別損失	154	710
税引前当期純利益	1,129	617
法人税、住民税及び事業税	300	15
追徴税額	—	15
法人税等調整額	193	273
当期純利益	636	313

個別株主資本等変動計算書 2007年4月1日~2008年3月31日

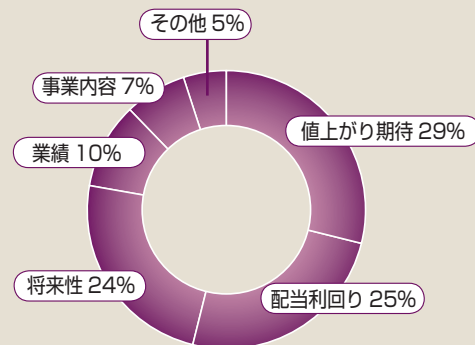
単位:百万円

	株主資本							評価・換算差額等		純資産合計	
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			株主資本合計	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計		
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金	利益剰余金合計					
2007年3月31日残高	1,390	1,959	1,959	67	3,530	709	4,307	7,657	12	12	7,670
事業年度中の変動額											
剰余金の配当						△ 219	△ 219	△ 219			△ 219
当期純利益						636	636	636			636
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)									—	—	—
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	—	416	416	416	—	—	416
2008年3月31日残高	1,390	1,959	1,959	67	3,530	1,126	4,724	8,074	12	12	8,087

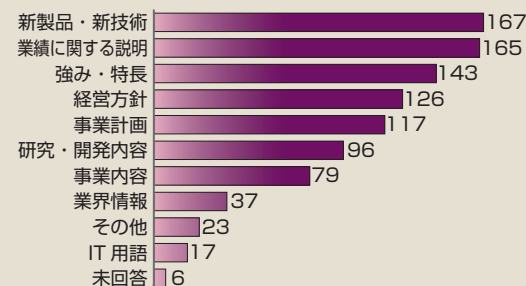
株主アンケート 結果報告

2008年3月期中間ご報告に同封いたしました株主アンケートに対し、438通ものご回答をいただきました。皆さまからいただきましたご意見、ご提案等は今後当社の事業ならびにIR活動に反映させてまいりたいと考えております。ご協力いただき、まことにありがとうございました。

当社株式の保有理由



当社について知りたい情報(複数回答)



Q JFEスチール以外の外販事業を拡大し、更なる業績向上を図る戦略についてわかりやすく教えてください。

A 当社は顧客基盤を拡充し、安定的な収益源を確保・拡大する一方、独自のプロダクト事業を展開し、高収益・高成長の事業セグメントを伸ばすことで、バランスの良い収益モデルの確立に向けて取り組んでいます。

顧客基盤の拡充に関しては、製造、金融、通信の分野で安定顧客の開拓と定着化が着実に進んでおります。安定顧客(年間取引額1億円以上)は2009年3月期には20社に到達する見込みで、3年前に比べ2倍に拡大することになります。

プロダクト事業では、当社が長年にわたり実績を積んできている「電子帳票システム(*1)」「BIシステム(*2)」などに加え、ニーズが高まっている「食品品質管理システム」に注力しています。当事業は当社の特徴的な領域でもあり、今後さらに業容拡大に取り組んでまいります。

Q 中小規模の食品メーカーや流通業界でも、「食の安心・安全」のために貴社のシステムを活用できれば、とつくづく思います。以前、そのような新聞記事を読んだ事があるのですが、現状はどのようなのでしょうか？

A 食品業界は大小さまざまな規模の会社があり、地方の中小規模メーカーを加えると国内で3万社以上が存在すると言われています。昨今の食品偽装等の事件でも明らかのように、食品メーカー各社は企業規模とは無関係に食の安全に取り組む必要があります。また、品質問題発生時の直接の当事者となる流通業界からも品質管理レベルの向上に対する要求が強まっています。

当社はこれまで、「Mercurius(メルクリウス)」「Quebel(キューベル)」を商材として、大手食品メーカーを中心に品質管理システムの納入を進めてきましたが、より一層の食の安全の浸透に向けて中堅・中小メーカーを対象とした「Vestia(ヴェスティア)」を新たに開発しました。また、昨年12月には生活協同組合コープさっぽろとの協業により品質管理システムを、流通チェーンを含めてSaaS(*3)形式で提供する「アルカナムオンラインサービス」を立上げ、裾野の拡大をはかっています。

(*1) 電子帳票システム: コンピュータから出力される大量の帳票を電子データとして保存、活用するシステム。

(*2) BI (Business Intelligence): 業務システムなどから蓄積される企業内の膨大なデータを、蓄積、分析、加工して企業の意思決定に利用しようとする手法。

(*3) SaaS (Software as a Service): ソフトウェアの機能のうち、ユーザが必要とするものだけを配布し、利用できるようなしたサービスの提供形態。

齊藤さんの入社動機は、この会社なら田舎者の自分でも自然体で頑張れそうだったことだという。その彼女は今、「就職先は会社の雰囲気だけでなく、仕事の中身や自分の将来目標をよく考えて決めなさい」と大学生にアドバイスする母親のような採用担当として活躍している。システムエンジニアとして仕事をしてきた頃は、お客様からの引き合いの多さと商品の完成度とのギャップに苦しんだという。完璧主義の性格は未完成の商品出荷を許せず、平日は毎晩遅くまで働いた。そんな中、「仕事100%から仕事+家事200%へ」と結婚によってさらにハードな生活へと彼女のワーク

ライフバランスが激変し、仕事と家事の両立にこだわって体調を崩したこともあった。しかし、子供ができたことで割り切れた。「この子にとって、母親は私しかない。無理はやめよう」と。現在の目標を聞くと、「採用活動は、人を採用して終わりではなく入社した後に育成するかが大切。今年は教育体系を大きく見直し、入社2年目や中堅社員向けの階層別研修も新設した。一人でも多くの優秀な学生と出会い、入社いただきたい。そして、彼ら自身が入社してよかったと思えるような会社を作るべく、いち早く育て欲しい」と彼女の細い目が輝いた。

社員紹介

人事部 採用・人材開発グループ 齊藤 真由美

(さいとう まゆみ)

富山県出身。1992年入社。初任配属で社内システムの開発に携わった後、1993年からファイル転送ツールの商品化プロジェクトへ参画して自社商品の開発とお客様サポートを担当。1998年より人材開発グループへ異動。1999年、2002年に出産・育児のため育児休暇を取得したが、現在は新卒大学生を中心とした採用活動と人材育成関連業務を担当。

○齊藤さんから見たJFEシステムズ
尊敬できる上司や先輩がたくさんいて、やりがいのある会社です。また、育児休暇や短縮勤務など、子供を持つ社員が仕事を続けやすい制度が整備されていて実際に活用できます。女性社員の働きやすさという面でも、本当に誇れる会社だと思います。

“お母さん”は毎週末も休む時間はない。土曜日は午前中に家事を済ませて午後から子供達の習い事に付き添い、日曜日は近くの公園や博物館へ遊びに行くのが毎週末の日課。今、齊藤家のブームは日本の歴史。「子供達に負けられないように歴史の勉強もしたいし、一緒に思い切り駆け回りたのですが、頭も体もついていけないんです…」と苦笑い。



Corporate Data 会社概要 (2008年3月31日現在)

回 会社の概要

社名	JFEシステムズ株式会社 JFE Systems, Inc.
設立	1983年9月1日
資本金	1,390,957千円
従業員数	1,278名

回 取締役および監査役 (2008年6月25日現在)

代表取締役社長	岩橋 誠
取締役	谷利 修己
取締役	堀田 善一
取締役	畠山 廣造
取締役	原山 誠
取締役(社外)	野村 信三
取締役(社外)	菊川 裕幸
常勤監査役	南部 正悟
常勤監査役(社外)	戸部 俊一
監査役(社外)	若林 莊太郎
監査役	西川 廣

回 執行役員体制 (2008年6月25日現在)

社長(CEO)	岩橋 誠
専務執行役員	谷利 修己
専務執行役員	堀田 善一
常務執行役員	畠山 廣造
常務執行役員	原山 誠
常務執行役員	野村 信三
執行役員	浅野 有一郎
執行役員	宮原 一昭
執行役員	杉 充
執行役員	清原 庄三
執行役員	福村 秀司
執行役員	金藤 秀司
執行役員	上條 巧

回 本社所在地

〒130-0012 東京都墨田区太平四丁目1番3号
TEL.03-5637-2100 FAX.03-5637-2400

回 株式の状況

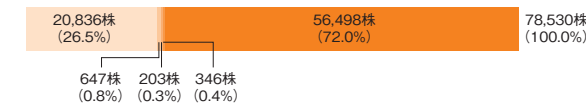
発行可能株式総数	338,050株
発行済株式総数	78,530株
株主数	2,327名

回 大株主

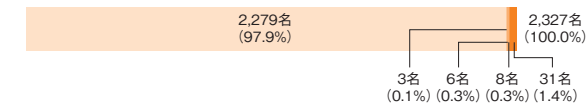
株主名	当社への出資状況	
	所有株式数 (株)	持株比率 (%)
JFEスチール株式会社	51,165	65.2
JFEシステムズ社員持株会	5,002	6.4
富士通株式会社	2,500	3.2
アトラス情報サービス株式会社	500	0.6
JFEアドバンテック株式会社	500	0.6
JFE電機株式会社	500	0.6
JFEメカニカル株式会社	500	0.6
中央三井信託銀行株式会社	500	0.6
JFE物流株式会社	500	0.6

回 株式分布状況

<持株数別株式分布の状況>



<所有者別の株主数>



■個人その他 ■金融機関 ■証券会社 ■外国法人等 ■その他国内法人